

成果の説明書

(氏名) 大島 登志彦	(学部) 経済学部
<p>1 重要事項</p> <p>[I] 本学を会場とした鉄道史学会大会の開催（10月20日～22日、概要・意義を列記）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10月20日：同学会の理事会と自由論題報告5件が行われた。 ・10月21日：下記記念講演と共通論題に関わる研究発表5件が行われた。 記念講演：今井幹夫(富岡製糸場総合研究センター)「木道馬車計画と富岡製糸所」 共通論題「北関東の鉄道の発達と地域の産業経済の変容」に関する研究5件 ・10月22日：本学後援会所有バスで巡検を実施した(主要見学場所とその意義と概要)。 鉄道遺産や戦争遺産(長野原町内):太子線の旧橋梁、北軽井沢駅舎、防空監視哨 碓氷製糸(安中市松井田):現在唯二の機械製糸工場として稼働 <p>当学会の開催に際して本学の公立大学法人より25万円の補助をいただいた。それは主に、大会予稿集の作成、プログラムや記念講演の依頼等の打ち合わせや巡検の下見、当日のアルバイト学生への謝金等に活用させていただいた。</p> <p>[II] 科学研究費のプロジェクトの分担研究（3年間の1年目）</p> <p>「超高齢化社会に向けた大都市縁辺地域のモビリティ満足度に関する地理学的研究」 駒澤大学土谷敏治教授主導の表記プロジェクトの分担研究の一環として、主に次の3要目に関して事例研究を行った。調査を重ねながら、従来からの研究を蓄積して成果報告したり、新たな問題意識を認識した。以下、その概要と分担金を活用したフィールド調査や報告論著を記載する(論文等を○番号で記す。そのうち、著書(共著)は、『』に著名・「」で分担執筆題目を記載し、論文は「」に題目・『』に雑誌名を記載)。</p> <p>(1) 北陸新幹線(金沢)と北海道新幹線(函館)開業時に関わる並行在来線の問題 新幹線開業に伴って廃止される並行在来線の定義や新幹線開業時に廃止されたJR在来線各所の事例と問題を考察した。具体的課題として、北陸新幹線開業時に大きく変容する予定のJR北陸本線や信越本線、北越急行などについて、北陸新幹線に関わる特有の問題として、交通需要の狭間を跨ぐ区間が2か所所在したり、在来線の電化方式が直流と交流に跨ることから、経営主体が第3セクターに移管された場合に従来にない困難な事情が伴うことや、大糸線・北越急行の問題が触れられなかったことなども言及した①)。 関連フィールド調査：8月30日新潟県へ出張(県庁交通政策課で聞き取りと資料収集) ①「整備新幹線と並行在来線の問題ーこれまでの経過と北陸新幹線開通に伴う新潟県内の問題を中心に」『地理』57-10(古今書院、2012年10月) pp.46-56</p> <p>(2) デマンドバスも含めた地方都市における公共交通の在り方 群馬県内全体や県内諸都市における従来からの公共交通の問題を、継続研究してきたが、今年度はとりわけ、高校生の通学需要における変遷や諸問題を、公立高校全体の歴史の変遷や学区の変化などに関連させて研究してきたほか、当プロジェクト研究の調査の一環として、茨城県東海村や新潟県三条市・胎内市のデマンドバスについて、事例を調査した。デマンドバスは、路線バスへの補助やコミュニティバスに比べてコストが削減できる傾向や利便性が伝承され、ブームのように各地で導入されつつあるが、利用者数や収支率との関わりでの調査(伝承される長所が実現できるのは利用が極端に少ない地</p>	

域であると考えられる)や地形や道路事情との関係等で問題や短所が多いこと、多種多様な方式などを提示しながら、地域に即した路線バスを考察する必要性を痛感していた。

関連フィールド調査

・8月6～7日：茨城県庁と東海村役場及びひたちなか市役所、ひたちなか海浜鉄道にて聞き取りと資料収集（この調査は当プロジェクト全員の共同調査の一環）。

・上記8月30日の新潟県出張（三条市と胎内市でのデマンドバスについて）

②高崎経済大学産業研究所編『新高崎市の諸相と地域的課題』（全306p、2012年3月、日本経済評論社）「高崎市の路線バスの変遷とそこに内在した諸問題の考察」pp.159～176

③「群馬・高崎の鉄道やバスの変遷とそこから学ぶこと」『えりあぐんま』第18号（群馬地理学会、2012年6月）

④高崎経済大学産業研究所編『高大連携と能力形成』（全311p、2013年3月、日本経済評論社）「群馬県における公立高校の歴史的変遷と特性・課題」pp.69～83

（3）東北・北海道の震災後の状況や炭鉱・鉱山閉山後の鉄道廃止に関わる公共交通

下記日程で、東北地方については、震災後の状況確認と諸問題を、北海道については、元鉱業・炭鉱都市を中心にフィールド調査を行い、各所の交通事情や廃線跡や産業遺産などの写真撮影、行政機関での資料収集などを行った。これらに関わる研究課題の糸口は多岐に亘っているものの、地方の中心都市とその縁辺地域関わりや連絡していた鉄道の廃止後の事情や課題など、当プロジェクト研究の表題に関わる部分を考察するまでに至らず、今年度は幹線鉄道建設期の鉄道忌避に関わる糸口を成果報告に留まった(⑤)。

関連フィールド調査

（東北2回は鉄道・路線バスの乗り継ぎ、北海道は道内在住研究者に自家用車で案内）

・6月15～17日：福島県川内村への路線バス事情の震災前後と同村内の現況

・6月22～24日：八戸市周辺の路線バス事情、東北線と沿線の地形・河川の状況

・8月31日～9月3日：北海道の旧炭鉱都市を中心とした廃止鉄道や産業遺産調査

⑤「わが国の幹線鉄道の建設と鉄道忌避に関する地理的考察」『高崎経済大学論集』55-3（高崎経済大学経済学会、2013年2月）

2 その他の事項

・学生を引率したゼミナールにおける伊豆箱根方面への巡検と指導

学部3年生に対して:フィールド調査と資料収集方法及び論文執筆の基礎を指導

学部2年生に対して:地理・歴史・経済史的に重要なビューポイントを巡回して説明

・大学院博士後期課程院生（新井祥純君）に対する指導

修了と学位取得に向けた指導(11月21日に中間報告会が行われた)。

学会誌への査読論文執筆の指導(研究発表2回と学会誌2本報告)を行った。

・自主的な研究会参加や外部からの委嘱された社会活動業務

「地方自治体の交通弱者対策と財政規律に関する研究」(日本交通政策研究会)に参加(2012年度の研究プロジェクト、研究会が3回開催・うち2回参加)

前橋市全市域デマンド化研究会委員(副代表) (4回の研究会議が開催)

群馬県タクシー特定地域協議会(座長として参加)

(特定地域に指定され2009年10月創始、今年度再指定され12月5日に協議会開催)